

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

1 児童（5・6年生）

(1) 自分の学年の児童数について（3ページ）

【全体】

- ・ほとんどの児童が、現状の児童数に対して「ちょうどよい」と感じている。
- ・他校の現状を知る機会が少なく、比較する対象がない中で、現状に対して特に不都合や不満を感じていない状態と考えられる。

【学年規模別】

- ・15人以下の学年では、約半数の児童が「少ない」と感じている。
- ・50人を超えると、「多い」と感じる児童が増加する。

(2) 自分の学校の現状について（4～7ページ）

【全体】

- ・いずれの項目でも「とてもできている」と答えた児童が最も多く、「だいたいできている」と合わせると、8割以上の児童が「できている」と感じている。

【学年規模別】

○多くの友達と力を合わせて勉強や運動ができる

- ・「10人以下」、「26～30人」、「51～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっているが、規模による傾向は特に見られない。

○授業などで先生にいていねいに教えてもらえる

- ・「26～30人」、「41～50人」、「61～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっていることから、1学級当たりの児童数が多くなると「できていない」と感じる児童が増える傾向が見られる。

○困ったことがあった時にすぐに先生に気づいてもらえる

- ・「26～35人」及び「51～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっていることから、1学級当たりの児童数が多くなると「できていない」と感じる児童が増える傾向が見られる。

○友達をたくさん作ることができる

- ・「10人以下」、「26～30人」、「61～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっているが、規模による傾向は特に見られない。

○ほかの学年の子とも一緒に活動することができる

- ・「10人以下」の規模でも「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっているが、概ね「26人以上」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっていることから、1学年当たり26人以上の規模の学校では異学年の交流が少ない、つまり同学年の児童同士で十分な交流ができている状態にあると考えられる。

○運動会などの行事が盛り上がる

- ・「10人以下」及び「61～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっており、規模による傾向は特に見られない。

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

○休み時間に運動場や体育館をたくさん使うことができる

- ・他の項目に比べて、全体的に「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっており、規模による傾向は特に見られない。

○いろいろな先生と接することができる

- ・「26～30人」の規模でも「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっているが、「41～70人」の規模で「できていない」と答えた児童の割合が大きくなっており、1学年2学級の規模になると「できていない」と感じる児童が増える傾向が見られる。

※「71～80人」の規模については、回答した児童が1人のため、分析の上では除外している。

2 保護者

(1) 学校の良い点について（11～12 ページ）

【全体】

- ・「特にない」と答えた保護者を除くと、「児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われている」と答えた保護者が最も多い。

【学校別】

- ・比較的規模の大きい学校（大野・亀川・巽）では、「クラス替えにより人間関係が広がり、友達がたくさんいる」ことを「良い」と感じている保護者が多い。
- ・「異なる学年での交流が盛んである」については、学校の規模を問わず「良い」と感じている保護者が多い。

(2) 学校の課題点について（13～14 ページ）

【全体】

- ・「特にない」と答えた保護者を除くと、「クラス替えができず、人間関係が固定化している」と答えた保護者が最も多い。

【学校別】

- ・比較的規模の大きい学校（大野・亀川・巽）では、「児童一人ひとりの個性を把握し、きめ細かな指導が行われることが少ない」ことを「課題」と感じている保護者が多い。
- ・「集団による競い合いや切磋琢磨する機会が少ない」については、学校の規模を問わず「課題」と感じている保護者が比較的多くなっている。

(3) 望ましい児童数について（15～17 ページ）

【1学年当たりの望ましい児童数】

- ・「35人以下（1学年1学級）」を望ましい児童数と答えた保護者が約6割で、そのうち約7割が「21～30人」程度を望ましいと考えている。
- ・「36～70人（1学年2学級）」を望ましい児童数と答えた保護者は約3割で、そのうち約9割が「36～60人」程度を望ましいと考えており、1学級当たりの児童数としては「18

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

～30人」程度を望ましいと考えている。

- ・「71人以上（1学年3学級以上）」を望ましい児童数と答えた保護者は1割未満でほとんどいない。

【望ましい児童数の理由】

- ・「35人以下（1学年1学級）」が望ましいと答えた保護者は、「児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」ことを期待している。
- ・「36人以上（1学年2学級以上）」が望ましいと答えた保護者は、「クラス替えにより人間関係が広がり、友達がたくさんできる」ことを期待している。

（4）学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点について（18 ページ）

- ・「児童の通学条件と安全性の確保」に配慮すべきと答えた保護者が約半数となっており、学校規模の適正化（統合等）によって「クラス替えができるようになる」ことよりも「通学区域が広がること」を懸念する保護者が多いのではないかと考えられる。

3 教職員

（1）現在の学校規模について（20 ページ）

【全体】

- ・現在勤務している学校の規模を「適正」と感じている教職員は約半数で、残りの半数は何らかの課題を感じている。

【学校規模別】

- ・「5学級以下（複式学級が生じる規模）」の学校では、ほとんどの教職員が「小さい」と感じている。
- ・国が示す適正規模である「12～18学級（1学年2～3学級）」の学校では、大半の教職員が「大きい」と感じている。

（2）学校の良い点について（21 ページ）

- ・「5学級以下」及び「12～18学級」の学校では、「クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、友達がたくさんできる」ことを「良い」と感じている。（全学年が複式学級編成になっている南野上小学校では、隔年で複式の組み合わせが変わることで実質的に「クラス替え」が行われていると考えられる）
- ・「6～11学級」の学校では、「児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導を行いやすい」ことや「担任以外の教員も児童の様子を把握できる」ことを「良い」と感じている。

（3）学校の課題点について（22 ページ）

- ・現在の学校規模を「小さい」と感じている教職員の大半が「クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい」ことや「集団の相互作用による競い合いや切磋琢磨する機会が少ない」ことを「課題」と感じている。
- ・現在の学校規模を「大きい」と感じている教職員のほとんどが「児童一人ひとりの個性を把握し、きめ細かな指導を行うことが難しい」ことを「課題」と感じている。

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

（４）望ましい児童数について（23～25 ページ）

【1学年当たりの望ましい児童数】

- ・「35人以下（1学年1学級）」を望ましい児童数と答えた教職員が約7割で、そのうち約9割が「16～25人」程度を望ましいと考えている。
- ・「36～70人（1学年2学級）」を望ましい児童数と答えた教職員は約3割で、そのほぼ全ての教職員が「36～50人」程度を望ましいと答えていることから、1学級当たりの児童数は「18～25人」程度が望ましいと考えていることが見て取れる。
- ・「31～35人」及び「61～70人」を望ましい児童数と答えた教職員がいないことから、1学級当たりの児童数が30人を超えるのは課題が大きいと考えていることが見て取れる。

【望ましい児童数の理由（学習面・生活面）】

- ・「35人以下（1学年1学級）」が望ましいと答えた教職員のほとんどが、「児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」点で望ましいと考えている。
- ・「1学年2学級」が望ましいと答えた教職員についても、「クラス替えにより人間関係が広がり、友達がたくさんできる」ことよりも「児童一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」点で望ましいと考えている。

【望ましい児童数の理由（学校運営面・地域活動面）】

- ・「35人以下（1学年1学級）」が望ましいと答えた教職員のうち、「全職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい」と考える教職員が最も多い。
- ・「1学年2学級」の規模になると「学年別や教科別の教職員同士で学習指導や生活指導についての相談等がしやすい」と考える教職員が多い。

（５）学校規模の適正化を検討する上で重視すべき点について（26 ページ）

- ・約7割の教職員が「児童数や学級数」を重視すべきと答えているが、多くの教職員が「1学年1学級」の規模が望ましいと考えていることを鑑みると、「より多くの児童数と学級数を確保すべき」という意図ではないと考えられる。

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

4 児童・保護者・教職員へのアンケート結果から考える望ましい学校規模

- 児童：
・ 1学年当たり15人以下になると、半数近くが「少ない」と感じ、1学年当たり50人を超えると「多い」と感じる児童が増える。
・ 1学級当たり25人を超えると学校の中で「できていない」と感じるが多くなる。
- 保護者：
・ 約6割^{※1}が1学年1学級の規模を望んでおり、その大半が1学年当たり21～30人程度を望ましいと考えている。
・ 1学年2学級の規模を望む約3割の保護者も1学級当たり18～30人程度が望ましいと考えている。
- 教職員：
・ 約7割^{※2}が1学年1学級の規模を望んでおり、その大半が1学年当たり16～25人程度を望ましいと考えている。
・ 1学年2学級の規模を望む約3割の教職員も1学級当たり18～25人程度が望ましいと考えている。

※1 「1学年1学級」の規模を望ましいと回答した保護者の中には、「望ましい児童数の理由」や「学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点」として「クラス替えができること」と回答している保護者が80名おり、それらの保護者は望ましい児童数として1学年当たりではなく1学級当たりの児童数を回答している可能性がある。（次ページ参照）

※2 「1学年1学級」の規模を望ましいと回答した教職員の中には、「望ましい児童数の理由」として「クラス替えができること」と回答している教職員が3名おり、それらの教職員は望ましい児童数として1学年当たりではなく1学級当たりの児童数を回答している可能性がある。（次ページ参照）

以上の結果を総括すると、児童・保護者・教職員の大半が望ましいと考えている規模は、「学校規模：1学年1学級」、「学級規模：16～30人程度」、「全校児童：100～180人程度」と考えられる。

適正規模等に関するアンケート調査結果（小学校）

①望ましい児童数の理由として「クラス替えができる点」を答えた保護者の内訳

| | | | |
|----------|-------|-----------------------------------|-------|
| 11～15 人 | 1 人 | 1 学年 1 学級 ※望ましい児童数とそ の理由が矛盾 | 24 人 |
| 16～20 人 | 1 人 | | |
| 21～25 人 | 4 人 | | |
| 26～30 人 | 13 人 | | |
| 31～35 人 | 5 人 | | |
| 36～40 人 | 54 人 | 1 学年 2 学級 | 109 人 |
| 41～50 人 | 29 人 | | |
| 51～60 人 | 16 人 | | |
| 61～70 人 | 10 人 | | |
| 71～105 人 | 40 人 | 1 学年 3 学級 | 40 人 |
| 合計 | 173 人 | | 173 人 |

②学校規模の適正化を検討する上で配慮すべき点として「クラス替えができる点」を答えた保護者の内訳

| | | | |
|----------|-------|-------------------------------------|------------------------|
| 10 人以下 | 1 人 | 1 学年 1 学級 ※望ましい児童数と配 慮すべき点が矛盾 | 64 人 (うち①との重複者 8 名) |
| 11～15 人 | 2 人 | | |
| 16～20 人 | 12 人 | | |
| 21～25 人 | 29 人 | | |
| 26～30 人 | 16 人 | | |
| 31～35 人 | 4 人 | 1 学年 2 学級 | 69 人 |
| 36～40 人 | 34 人 | | |
| 41～50 人 | 15 人 | | |
| 51～60 人 | 8 人 | | |
| 61～70 人 | 12 人 | 1 学年 3 学級 | 15 人 |
| 71～105 人 | 15 人 | | |
| 合計 | 148 人 | | 148 人 |

③望ましい児童数の理由として「クラス替えができる点」を答えた教職員の内訳

| | | | |
|----------|------|-----------------------------------|------|
| 21～25 人 | 2 人 | 1 学年 1 学級 ※望ましい児童数とそ の理由が矛盾 | 3 人 |
| 26～30 人 | 1 人 | | |
| 36～40 人 | 7 人 | 1 学年 2 学級 | 14 人 |
| 41～50 人 | 6 人 | | |
| 51～60 人 | 1 人 | | |
| 71～105 人 | 1 人 | 1 学年 3 学級 | 1 人 |
| 合計 | 18 人 | | 18 人 |